



～ごあいさつ～

*コロナウイルス感染症対応により、2月後半に出す予定だったねこねこだよりですが、4月中に出すことになってしまいました。申し訳ありませんでした。

遅くなりましたが、昨年末に行いました各グループのクリスマス会の様子を報告します。昼食にはケーキが付き、皆さん美味しそうに食べられていました。サンタクロースからプレゼントを受け取り、皆さん喜んでいました。

～施設長挨拶～

今年も施設から望む中央アルプスに桜の淡いピンク色が彩を添える時期となりました。昨年度はコロナ禍において、これまでの生活様式が変わり、ご利用者の生活も大きく変化しました。そして新型コロナウイルス感染症による集団感染も経験したことで施設の感染症対策を見直すきっかけとなりました。今年度は今回の経験を生かし、感染症にも強い施設として取り組んでいきたいと思っております。まだまだ緊張感が続く毎日ですが、ご家族等との連携を大切にしながら、コロナ禍の中でも、できることを配慮工夫しながらご利用者が笑顔になれる取り組みを行ってきたいと思います。ご利用者、ご家族の皆様にはご不便と大変淋しい思いをされていることと存じますが、どうか今しばらくご理解とご協力をお願い申し上げます。また、ご利用者が笑顔になれる事業運営を行うと同時に、職員が笑顔になれる仕組みを作ることも大切なことだと思っています。これからも法人理念である「人権の保障と幸福を共に創る」にあるように、一人ひとりの望む幸せ創りを意識したサービス提供を行ってまいりたいと思っております。

★ ★ ほしグループ ★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

12月24日、親愛の里松川でクリスマス会が開かれました。コロナウイルス感染症が下火の時期で外出ができるようになり、2年ぶりのほしグループカラオケ大会をカラオケボックスで行いました。例年はドライブ組、カラオケ組と2グループに分かれていましたが、今回は全員カラオケに参加しました。密にならないよう3部屋に分かれ、それぞれ好きな曲を選びました。アニメや特撮ヒーローの歌、童謡が人気ですがスピッツやZARDなどポップスを上手に歌う方もいて大いに盛り上がりました。また、おやつにはクリスマス会恒例のフライドチキンを堪能し、皆さん満足されたのではないのでしょうか。コロナ禍、束の間でしたが楽しい時間を過ごせてよかったです。



かめグループ



今年のクリスマス会も盛り上がりました。12月はコロナウイルス感染症も落ち着いていたため、かめグループはカラオケに行ってきました。キャンディーズ、ピンクレディー、北島三郎など好きなアーティストの曲を選び、皆さんこぶしの効いた素敵な歌声を披露してくださいました。みんなで手拍子をして盛大なカラオケ大会になりました。

昼食はローストビーフ丼、唐揚げ丼から選びました。どちらも美味しかったですね。デザートはチョコレートケーキとイチゴケーキも魅力的で選ぶのが大変だったのではないのでしょうか。昼食後は施設に戻ってサンタさんからクリスマスプレゼントをもらいました。欲しかったものはもらえましたか？来年も楽しいクリスマス会にしましょう。



ゆめグループ



ゆめグループのクリスマス会は、施設内で行いました。飾りつけを行い、クリスマス感満載の雰囲気です。各ご利用者一人一人カラオケをしましたが、カラオケが始まると手拍子を始めたか、マイクを離そうとせず握りしめたままのご利用者もいらっしゃいました。普段あまり歌わない方も歌っていました。クリスマス会も終盤に差し掛かり、いざプレゼント交換です。プレゼントを渡されると、感無量で泣いている方もいました。好きな物がもらえて嬉しそうでした。クリスマス会の日の昼食は選択メニューでローストビーフ丼、唐揚げ丼でした。とてもおいしくいただきました。



～全体記事～



～「新春餅つき大会」～

令和4年1月5日、新年を寿ぐ恒例の餅つき大会が盛大に行われました。当日、準備が整う頃にはご利用者の皆さん各棟からぞくぞくとホールに集まって来ました。ふっくらと蒸しあがったもち米が臼に入ったらワクワク感も最高潮です。「よいしょー!」「よいしょー!」と声を掛け合いながら会場に来ていた皆さん全員が杵を握り餅をつくことができました。中には職員のお手伝いがないと重い杵を上手に振り下ろしていい音を響かせているご利用者もいました。コロナ禍、皆で集まって何かをすることが難しくなっている今、短くても楽しく過ごせたことはとても貴重な時間と感じました。さて、つきあがったお餅はというときたてを味わった後、昼食に辛みもちと磯部もちにいただきました。そして、11日の鏡開きでお汁粉をつくってもらい、いろいろな味わいで堪能することができ皆さん満足されたのではないのでしょうか。



～新型コロナウイルス感染症クラスター発生～

1月22日に感染者が発生し、2月17日の終息まで利用者38名、職員26名の感染が起り、災害とも言える事案が当施設で発生しました。日ごろから対策を取りながら感染が起きないように対応してきましたが、それも諸刃の剣のように荒ましい日々でした。利用者の皆さんは、職員やボランティア、日々の活動などの楽しい日々を奪われ、また職員も利用者の皆さんとの関わりが、いつものようにできずに大変辛い日々でした。そのような中でも利用者の皆さんは、この局面に向き合い、そして耐えてくださり27日間で終息に至りました。そしてご家族や関係者の皆さんにたくさんのご心配をおかけしました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

このような記事にすることでもないのですが、この事案を経験出来たからこそ、学ぶことも多く（起きないことがもちろん大切ですが・・・）、とるべき対策が明らかになったことも事実です。経験の中で得た産物を次の対応に生かせるように今後も継続して対策を取ってきたいと思えます。



～「古希・還暦祝い」～

3月22日（火）にご利用者の須崎豊治さん（60歳）、根津清高さん（70歳）の還暦・古希のお祝いがありました。3月にしては珍しく、窓の外は積もるほどの雪が降っていましたが、棟内は暖かく過ごしやすかったです。当日は11時半より異動する職員、新しく入る職員の紹介があった後、皆でこの10年の須崎さん、根津さんの過ごしてきた日々を振り返るスライドを見ながら、お祝いをしました。式ではお二人に一張羅のスーツを着てもらったうえでの全員での記念撮影や、ご利用者の皆さんからの心のこもった記念品の贈呈、施設からの長寿のお祝いの贈呈をしました。お祝いの後は、グループごとに集まって食堂でスペシャルメニュー（お寿司、てんぷら、茶わん蒸し、デザート）の昼食を食べました。皆さんお寿司やてんぷらは大好きなようで思い思いにワサビやしょうゆをつけて楽しまれていました。皆さんがこれからも元気に楽しく長生きしていただくことで、またこのようなお祝いができればと思います。



編集後記

1月、2月は大雪で、職員は仕事の合間をみては雪かきに追われていました。今は一雨ごとに暖かさが増し、春に向かっていきます。暖かくなってきたせいか、ご利用者の気分も高まり、外出したい様子ですが、未だに1月からの状況は変わっていません。来年度は、ここ2年間行っていなかった行事が出来る様に計画をしていますので、どうかコロナが収束する事を職員一同願っています。今年度もよろしくお願いいたします。

広報係：山口・笠井・松井

～今後の行事予定～

・行事未定。